

ペンネーム	ボクサーランナー
<p>【エピソードのタイトル】</p> <p>もう一度プロポーズ</p>	
<p>【エピソードの内容】</p> <p>第1回大会から毎年5km部に出場しています。今年も4回目の出場です。5kmにエントリーしました。</p> <p>私にとってこの大会は、第1回大会から出場しているご縁のある大会というだけではなく、「下関海響マラソン2010」は妻にプロポーズをした特別な大会です。</p> <p>つきあって1年ほどたったころプロポーズをするにはどうしたらいいだろうかと考えていました。とはいえ器用な人間ではないので別段ロマンある方法が思い当たらずかなり悩みました。</p> <p>試行錯誤の末に自分が頑張っている趣味のランニングとボクシングの大会に出場して男らしいところを見せてプロポーズをしようと思えました。そして10月末のボクシング県大会に出場し、翌週の海響マラソン5kmで入賞メダルを彼女にかけることを目標に練習を開始しました。</p> <p>その日から早朝は「ボクシング」、日中は「仕事」、夜は「ランニング」+減量、三重生活の日々が続き、疲労や貧血など思った以上にきつい状況に、心が何度も折れそうになりましたが、「2010年11月7日」を最高の日にしたい気持ちを支えに頑張ってみました。</p> <p>10月のボクシング県大会は無事に出場を果たしました。</p> <p>いよいよプロポーズ当日となる海響マラソンです。スタート前、自分の人生の一大イベントと思うと動悸が止まりませんでした。ピストルの号砲とともにたくさんの方が猛スピードで直線走路を駆けて行きます。最初は、集団に飲み込まれましたが1キロ過ぎには先頭集団より少し後ろにつけることができました。後半から勝負と思い、残り2キロ地点までは離されても絶対にあきらめないと心に決めて走っていました。折り返し地点で順位を確認しました。招待選手、トップの選手からは、やはりジリジリと離されていきましたが、距離が縮まってきている選手も出てきました。沿道の暖かい応援も受けながら息を荒げて一人一人必死に追い抜き、おそらく3位である人まで並び追い抜きました。この時点であと約1キロでした。「頼む！このまま行ってくれ・・・」と私自身も限界を迎えてきており何度も心のなかでつぶやきました。ですが、力尽きスピードダウン。息苦しく足に力が入りません。再び追い抜かれました。それでもあきらめたくない腕を振りその背中を追いかけましたが近づくことはありませんでした。チャンスがあっただけに残念でした。</p> <p>彼女に顔向けできないと思いましたが、待たせたくないだったのでレース後に、海峡ゆめ広場で、2009年大会のメダルを渡し、「家族になってください」とプロポーズしました。彼女は「うん」とOKしてくれて晴れてクリスマスイブに入籍できました。</p> <p>今年は、この思い出の大会でもう一度入賞を目指し、妻にちょうど1年越しのプロポーズをやり直せたらと思っています。</p>	